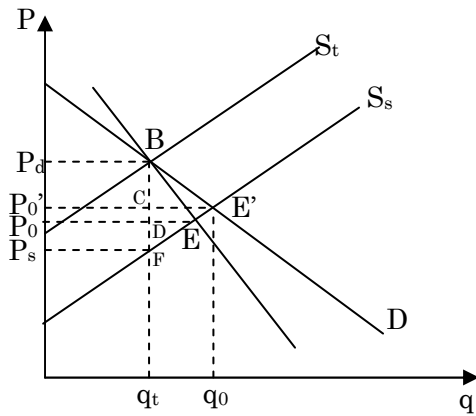


課税による税負担



傾きの異なる需要曲線を考える傾きの大きい需要曲線の方が厚生損失は小さい
 = 需要の価格弾力性が小さいほど課税による厚生損失は小さい

税負担を考える

$$\left. \begin{array}{l} \text{消費者の税負担} \left\{ \begin{array}{l} D : P_d B D P_0 \\ D' : P_d B C P_0' \end{array} \right. \\ \text{生産者の税負担} \left\{ \begin{array}{l} D : P_s F D P_0 \\ D' : P_s F C P_0' \end{array} \right. \end{array} \right\}$$

効率性の観点からは損失が少ない方がよい
 しかし、それは需要の弾力性が小さい財=必需財のことが多いので低所得の人の税負担を高めることになる

物品税の場合、税を払っているのは消費者だが、売り損ったという点で生産者側も損失を受けている

税負担比率

$$\begin{array}{l} \text{消費者} \quad P_d P_0 \times P_0 D \\ \text{生産者} \quad P_s P_0 \times P_0 D \end{array}$$

$$\frac{\text{消費者負担}}{\text{生産者負担}} = \frac{P_d P_0}{P_s P_0}$$

需要の弾力性

$$\varepsilon = -\frac{\Delta q}{q_0} \div \frac{\Delta p}{p_0} = -\frac{p_0}{q_0} \times \frac{\Delta q}{\Delta p} = -\frac{p_0}{q_0} \times \frac{DE}{P_d P_0}$$

供給の価格の弾力性

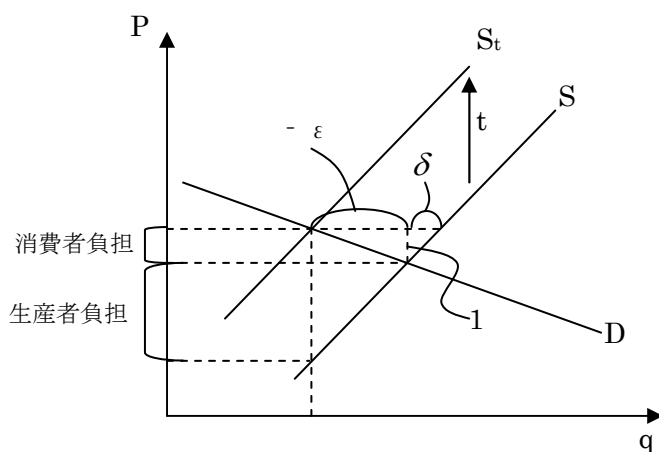
$$\varepsilon = \frac{\Delta q}{q_0} \div \frac{\Delta p}{p_0} = \frac{p_0}{q_0} \times \frac{\Delta q}{\Delta p} = \frac{p_0}{q_0} \times \frac{DE}{P_s P_0}$$

$$P_d P_0 = -\frac{1}{q} \times \frac{p_0}{q_0} \times DE$$

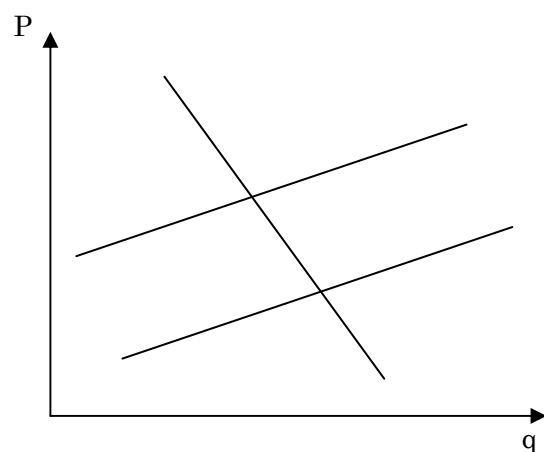
$$P_s P_0 = \frac{1}{\delta} \times \frac{p_0}{q_0} \times DE$$

$$P_d P_0 : P_s P_0 = -\frac{1}{\varepsilon} : \frac{1}{\delta} = \delta : -\varepsilon$$

税負担の負担割合は価格弾力性の逆数に比例する



$0 < |\delta| < |-\varepsilon| < \infty$ の場合生産者が負担



$0 < |-\varepsilon| < |\delta| < \infty$ の場合消費者が負担

完全競争市場の最適性

- {

余剰分析

部分均衡分析
 総余剰を最大化する

パレート分析

一般均衡分析
 複数の市場（財、サービス）を扱う

- ・これ以上取引をするとどちらかの満足度が下がるような状態のこと
- ・誰かの効用水準を下げることなく他の人の効用水準を増やせる場合、それを改善として評価、改善ができないような状態のことをパレート効率的な状態と呼ぶ。